

ベトナム・カイゼン・プロジェクト

広島県立府中高等学校 担当教科：国語 笹田 麻実

実践教科：現代文、総合的な学習の時間 対象学年：高校3年生 対象人数：現代文(39名) 総合的な学習の時間(238名)

■実践の目的

- ベトナムの人々の生活を知り、自分たちの生活と比較することを通して、外国特にアジア圏への興味・関心を深める。
- ベトナムの課題を解決するためのプロジェクトの作成を疑似体験すること等を通して、持続可能な社会をつくっていくための能力や態度（「多面的に見る」「批判的に見る」「物事の背景を考える」「他者と協力する」）を身につける。
- ベトナムや世界で行われている実際の国際協力について情報を得ることを通して、知見を広める。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	テクノロジーとのつきあい方を枯葉剤から考える 【3年6組：現代文】 • 枯葉剤の被害について知り、既習教材を現実と結びつけて考える	(1) 枯葉剤の被害者の写真を見て、知っていること、気づいたことを挙げる (1)(2) 『母は枯葉剤を浴びた』より抜粋した文章及び新聞記事を読んで、はじめて知ったこと、考えたことをまとめる (2)(3) テクノロジーとのつきあい方について自分の考えをまとめる	• 評論文「テクノロジーとのつきあい方」 • 『母は枯葉剤を浴びた』より抜粋した文章と写真 • ベトナムの環境汚染に関する新聞記事 • ワークシート
2	ベトナム・カイゼン・プロジェクト(導入) 【3年6組：現代文】 • ベトナムについて興味・関心を深める	(1) ベトナムクイズを行いベトナムの概要について知る (1)(2) 3つのプロジェクト(小学校での平和学習・環境ビジネス・人身取引ホットライン)の概要を把握し、グループごとに進めたいプロジェクトを選ぶ	• クイズの景品(お土産) • ベトナム・カイゼン・プロジェクト手順書 • パワーポイント
3	フォトストーリー：ベトナム編 【3年生：総合的な学習の時間】 • 情報を吟味し、物事の背景を考える力を養う	(1) 授業の目標を確認する (1)(2) 16枚の写真から4枚を選び、ベトナムはどのような国か、グループごとに選んだ写真をもとにしたストーリーを作り、発表しあう (3) 写真の状況や背景を知り、自分のそれまでのものの見方や考え方を振り返る	• ベトナムの写真(14枚) • カンボジアの写真(2枚) • ワークシート • ベトナム人日本語学習者へのインタビュー動画 • パワーポイント
4 5 6	ベトナム・カイゼン・プロジェクト(準備) 【3年6組：現代文】 • 情報に基づいて適切な目標を設定する • 問題解決のためのアイデアを出してそれを形にする	(1) 問題について情報収集を行い、それに基づいて適切な目標を設定する (1)(2) 目標を達成するための活動計画を立てる (2)(3) ポスターを作成する (3)(4) 発表練習を行う	• ベトナムで購入した書籍や教科書 • なりきり青年海外協力隊のポスター見本
7	ベトナム・カイゼン・プロジェクト(本番) 【3年生：総合的な学習の時間】 • 積極的にベトナムの課題に向き合い改善策を考える • ベトナムにおけるJICAの活動を知る	(1) 3年6組生徒によるポスターセッション (2) 発表を聞いた1～5組の生徒からのコメント (3) ベトナムでの実際の活動(環境ビジネス・人身取引ホットライン)について知る	• 3年6組生徒作成のポスター • ワークシート • パワーポイント

8	<p>ルワンダ原爆展～ヒロシマから平和を伝える～ 【3年生:総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの受けてきた「平和学習」について振り返る 世界における JICA の活動を知る 	<p>(1)ルワンダ原爆展について JICA 職員の方の講演を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート パワーポイント
---	---	---------------------------------------	---

■この授業に注目！

2 時間目 ベトナム・カイゼン・プロジェクト (導入)

ねらい：ベトナムについて興味・関心を深める




2 時間目は 3 年 6 組の生徒を対象にグループ対抗のクイズ大会を行った。3 年 6 組は 7 時間目でポスターセッションの発表者となるクラスである。クイズ作成の際は、次の 3 点を意識した。

- ① 生徒たちが既習と思われる内容を含むもの
- ② 生徒たちの日常生活と関わりがあるもの
- ③ 今後の「ベトナム・カイゼン・プロジェクト」を進めていくにあたって必要と考えられる知識を問うもの

特に ③ 今後の「ベトナム・カイゼン・プロジェクト」を進めていくにあたって必要と考えられる知識を問うものは念頭に置きながら、次の 10 問を作成し、出題した。

まずは、ベトナムを知るクイズ！

Q1
ベトナムの国旗はどれでしょう。

①  ②  ③ 

ベトナムクイズ！

Q2
ベトナムの政治の体制は次のうちどれでしょう。

① 共和制
② 立憲君主制
③ 社会主義共和制

(正式名称) ベトナム社会主義共和国



「ベトナム共産党」による一党独裁制度です。

ベトナムクイズ！

Q3
ベトナムは1899年から1945年まである国の植民地でした。「ある国」の国名を答えてください。

A フランス

インドシナー半島がフランスの植民地となり、「フランス領インドシナ」と呼ばれていました。

ベトナムクイズ！

首都 ハノイ

面積 346,410km² (日本よりやや小さい)

人口 9,170万人 (12位)

公用語 ベトナム語

宗教 仏教

GDP 1,227億ドル (2011年)
→広島県とほぼ同じ経済規模

気候 北部 温帯 / 南部 熱帯

輸出品 原油、衣料品、農水産物 (コメ、コーヒー)

ベトナムクイズ！

Q4
この食べ物の名前は何でしょう。



A フォー

日本のうどんも流行ってます。



ベトナムクイズ！

Q5
「スパイシーポークうどん」59,000ドン 日本円だといくらでしょう。



1 ドン

= 0.00508 円

59,000 ドン

≒ 300 円


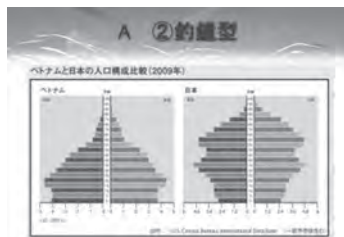
(2014年9月13日現在)



ベトナムクイズ!

□ Q6
ベトナムの人口構成は次のうちどれでしょう。

①富士山型 ②釣鐘型 ③壺型



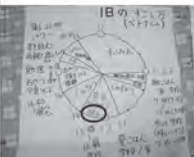
ちなみに・・・
ベトナムの平均年齢
なんと28歳!
しかし
「高齢化社会」



ベトナムクイズ!

□ Q7
日本の小学生の一日を聞いて、ベトナムの小学生が一番驚いたことはどれでしょう。


①一日中学校がある
②お昼寝がない
③掃除をする

ベトナムクイズ!

□ Q8
日本の教師の一日(仕事)を聞いて、ベトナムの先生が驚いたことはどれでしょう。

①アルバイトをしない
②管理職による評価がある
③お昼寝をしない



ベトナムクイズ!

□ Q9
ベトナムの小学生に質問しました。
「あなたの大切なものは何ですか。」
20人中15人が同じ回答でした。
その答えとは何でしょう。



「家族です。」



ベトナムクイズ!

□ Q10
日本がベトナムに行っているODA(政府開発援助)のうち、1992年から2012年までの「円借款」の承諾累計総額はいくらでしょう。

A 2.01兆円

(JICAが支援している国の中では年間1位の金額)

解説を付け加えながら正解を発表していった。総合得点の高かったグループから順にお土産を選ばせ、落ち着いたところで本題の説明に移った。

本題です。

「ベトナム・カイゼン・プロジェクト」に挑戦!

ベトナムの人が困っていること、もっとよくしたいと思っていることを解決するためには何をすればよいのか・・・
グループごとに目標達成に向けた活動計画を立ててもらいます。
考えたことをポスターにまとめて、他のクラスの人に発表しましょう!

ベトナム・カイゼン・プロジェクト

□ 1 小学校で平和学習の授業を実践せよ!
□ 2 新しい環境ビジネスを立ち上げよ!
□ 3 人身取引ホットラインを広めよ!

各グループにベトナム・カイゼン・プロジェクト手順書を配布し、グループごとに取り組むプロジェクトを決めさせた。この手順書の内容は実際にベトナムで見聞したことを元に授業者が作成した。結果、「小学校での平和教育」3グループ、「環境ビジネス」4グループ、「人身取引ホットライン」2グループとバランスよく分かれた。

〈生徒の反応〉

- ・最初は高校3年生にクイズ?という雰囲気もあったが、グループ対抗にすることで盛り上がった。
- ・Q2やQ3は授業で聞いたことはあるはずだけれど思い出せない、というもどかしさが伝わってきた。
- ・Q4で出題した「フォー」は多くの生徒が知っていた。ベトナムの食文化に関しては高校生にもある程度浸透している模様。
- ・「丸亀製麺」の写真と店内の様子の話には大変驚いていた。
- ・Q7で出題したベトナムの小学生の昼寝は信じがたいようだった。いったい教室でどうやって昼寝をするのか生徒同士で話していた。

〈所 感〉

過去の教師海外研修の参加者から導入はその国に関するクイズがよい、ということをお聞きしていた。最初は高校3年生にクイズは・・・とためらっていたが、実際にやってみると思いのほか盛り上がり、楽しく知識を共有することができた。歴史や政治経済に関する問題は高校生相手だからこそ出題できる問題であり、既習の知識を使う楽しさ（思い出せなくて悔しいことも含めて）も味わえたと思う。

現地の小学生の様子や飲食店の様子など生活に身近なところも解説に取り入れた。多くの生徒にとって心理的に遠い国だったベトナムを、少しでも身近に感じるきっかけとできたのではないかと感じている。

3 時間目 フォトストーリー：ベトナム編

ねらい：情報を吟味し、物事の背景を考える力を養う

3年生全体を対象とするワークショップ型の授業実践となった。メインの活動となるフォトストーリーは、フォトランゲージにヒントを得て構想した。

最初に授業の目標を確認した。

今日の授業で意識してほしいこと

- 1 多面的に見る
- 2 批判的に見る
- 3 物事の背景を考える
- 4 他者と協力する

この目標を実感するためのアイスブレイキングを2つ行った。まずは「1 多面的に見る」ことを実感するために、JICA 中国での事後研修で教えていただいたアイスブレイキングを行った。手順は次のとおりである。

- ① 右手の人差し指を立てて目線より上にあげる。
- ② 自分の指先を見上げながら時計回りに指先を回す。
- ③ 指先を回しながら腕ごと下へとおろしていく。
- ④ 自分の指先を見下ろす。

何が起こるかは実際に試してみてほしい。気づいた生徒たちからは驚きの声があがった。同じ現象でもどの面から見るかによって受け止め方が変わってくることを実感させ、多面的にものを見ることの面白さと大切さを確認した。

次に「3 物事の背景を考える」ことを実感するために、次の写真を見せ、これは何かを質問した。

物事の背景を考える



生徒にマイクをむけたところ、戸惑いながらも「トイレ」という答えが返ってきた。「正解。しかも、私が写真を撮れる場所だから女子トイレです。」と答えると、一斉に「えーっ！」という反応が返ってきた。そこで、ベトナムの下水道事情を説明し、なぜトイレットペーパーを流さ

ないトイレがあるかという背景を説明した。

その後、簡単にベトナムの概要を説明した後、4人グループをその場で作らせた。各自にワークシートを配布し、各グループに16枚の写真をプリントアウトしたものを配布した。そして、スライドで次の指示を出した。

ワークショップ「フォトストーリー：ベトナム編」

【進め方】

- ・グループで16枚の写真の中から4枚を選んでください。
- ・4枚の写真を使って「ベトナムってこんな国」というお話を考えてください。
- ・写真をよく観察して背景を読み取り、説明に加えてください。推測が入っても構いません。

写真は以下の16枚である。この時点では写真のみを提示した。特に解説も付け加えずに、各グループの活動に入った。

① 屋台はいつも大盛況



② 夜の路上は・・・



③ フランスパン



④ フェイスブック中毒



⑤ 民族衣装 アオザイ



⑥ 「安全への逃避」



⑦ ホー・チ・ミン



⑧ トヨタ・・・？



⑨ ノイバイ国際空港第二ターミナル



⑩ 大人気イオンモール



⑪ 日本食ブーム



⑫ 川沿いのスラム街



⑬ マスクは必需品



⑭ 田んぼの中のお墓



⑮ 4人乗り・・・？



⑯ 日本語勉強中



生徒の発表では次のようなストーリーが披露された。

- (⑬・⑩・⑪・⑨)「休みの日はバイクに乗ってお出かけをして、今話題のイオンモールでおいしいと評判の日本食『寿司』を買う。町中で建設ラッシュ。」
- (③・⑧・⑨・②)「かつてフランスに植民地支配されていたベトナムは、フランスパンからわかるようにその影響で今も残っている。現在ではトヨタなどの日本の車も多く走っており、開発も進んでいるが、その反面環境問題も深刻化している。」

一通り生徒の発表を聞いたところで、種明かしに入る。

実は・・・

**ベトナム以外の国の写真が
2枚混ざっています！**

実は、⑧と⑮の2枚は以前カンボジアで撮ったものである。写真を提示する前に共有していた情報をもとにして、よく写真を観察すればベトナムの写真ではないことを見抜けるようなものを選んでいく。

写真	事前に提示した情報	注目する部分
⑧	ベトナムではベトナム語が話されており、ローマ字表記	車のナンバープレートがローマ字表記ではない(クメール文字)
⑮	ベトナム国旗	左端にカンボジア国旗がはためいている

気づかずにカンボジアの写真を選んでいくグループも多くあり、「だまされた」という実感を持たせたところで、情報があふれる現代であるからこそ、本時の目標である「2 批判的に見る」ことの大切さに触れた。

その後、それぞれの写真の背景を説明し、最後に⑯の写真に関連して、日本語を学習しており、将来日本企業で働くことを希望する青年のインタビュー動画を流した。

青年のインタビューの内容を受け、これからの日本は今以上にグローバル化が進み、多くの外国人が住むようになり、日本から海外で働きに行く人も増えることを伝えた。グローバル社会で生きていくにはグローバル人材になる必要があり、グローバル人材とは、本時の目標である4つの能力や態度を身につけた人物ではないか、と問題提起をした。最後に本時の振り返りを行い、次回予告をして3年6組の生徒にプレッシャーを与えたところで授業を終えた。

〈生徒の反応〉

- グループでの相談では、頭を突き合わせて一枚一枚の写真について細部まで注目して意見を出し合っていた。⑨からはJAPANの文字に気付き日本企業の支援があるのではないかと、読み取りをしたグループも多かった。
- 一つ一つの写真について観察して推測をすることはできても、4つの写真をつなげて一つのストーリーを作るには戸惑いが見えた。時間内に完成しなかったグループもある。

〈所感〉

授業後、生徒たちが「今日は頭が疲れた～」と言いながら教室へ帰っていった。生徒たちのやや疲れた表情を見ることができ、充実感があった。与えられた情報を細かく観察し、状況や背景を想像し、自分の持っている知識と結びつけ、複数の情報を組み合わせていく、という日頃は行わない知的な活動を提供できたと思った。

改善点としては、話題の詰め込みすぎになった点である。日本語学習者のインタビューを独立させ、グローバル人材について考えることで1時間使った方が、全体がすっきりしたのではないかと。そうすれば、生徒がグローバル人材について考える時間もとることができた。

7時間目 ベトナム・カイゼン・プロジェクト（本番）

ねらい：積極的にベトナムの課題に向き合い改善策を考える、ベトナムにおけるJICAの活動を知る

4～6時間目に3年6組の生徒が作成したポスターをもとに、3年生全体でポスターセッションを行った。

3つのプロジェクトの概要をスライドと手順書を用いて全体で共有した後、ワークシートを各自に配布し、ポスターセッションの本番へと移った。

発表は全部で3回行った。発表は1回あたり説明5分と質疑応答3分の計8分、1回終わるごとに参加者は自由に移動する。最後に参加者は自分が聞いた3つの発表のうち最も実現可能性が高く、状況を改善することができると思ったグループに投票する。



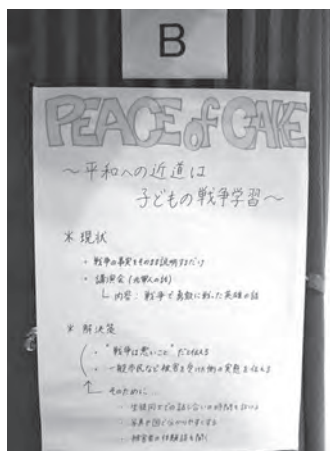
写真1 ポスターセッションの様子①



写真2 ポスターセッションの様子②

最初は発表が1分程度で終わってしまったり、質問ができなかったりして戸惑う様子も見られたが、次第に意見や質問が出るようになっていった。同級生や教員からの鋭い質問に対して返す言葉がない様子も見えた。

各グループのポスターと参加者からのコメントは以下のとおりである。



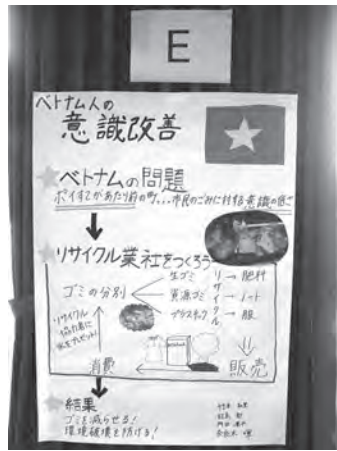
- ・段階を踏んで子供たちに興味を持ってもらえるようにしているからよいと思った。
- ・子供と仲良くなりクイズでつながる小学生向き！
- ・日本とベトナムは国の考え方が違うので、正解というものはないとも思う。

- ・日本のお話をどのタイミングで入れていくのかなあと思いましたが、自分たちに置き換えられる工夫を入れるのはよいと思いました。
- ・終戦の6月に向けて行事を組むのはよい。
- ・広島での平和学習みたいで、真剣に平和について考えることができると思う。



- ・自分たちだけではなくイオンモールで発表してベトナム全体に広げようとするのがいいと思う。
- ・学期ごとにやることを分けているのが分かりやすかったし、自分の経験を踏まえて考えているのがよかった。どこに見学するのがもう少し具体的でも良かったと思う。
- ・日本の考えを押し付けてはいけない。

- ・路面電車や商店街ができるまでの交通渋滞や大気汚染の改善策は？
- ・広島のある歴史ある路面電車とベトナムの商店街を混ぜていいと思った。町も活性化できてゴミも減らせるので、一石二鳥だと思った。でも、費用の問題もあるなど思った。
- ・路面電車はそんなに簡単にできるのか？



- 分別をベトナム人はしなさそう。
- まずはきっかけからということと、販売のシステム自体はよいと思った。でも、意識改善の問題には十分に触れていない。
- リサイクル場を作るのにはお金がかかる。

- T満屋などのデパートは都市の人は利用できるが、田舎の人は利用できず、また格差が広がるのではないか。
- ポイント制だとどんどん会員が増えて会社にも会員の方たちにも利益がある。
- エコステーションの建設は、よく考えたなあと思った。環境問題を改善しながらきれいな水がもらえるという利益が得られてすごい。



- 環境を改善しながら企業や人々の双方の利益を生み出しているのがすごい。実用化されたらとても効率的なので成功すると思う。
- ごみを燃料にして双方に利益があって環境ビジネスの考え方もよくわかった。発表の仕方もうまかった。企業の利益はあまりないと思った。
- ベトナムのごみ問題について説明してくれたのが分かりやすかった。仮想の株式会社を作って、具体的にゴミをどうなくしていくかが詳しく、あとちゃんとビジネスになっているのがよかった。

- トレンドのものを使うのがいいと思った。FBは拡散力が高いので適していると思う。
- ツイッターとか今の私たちでも簡単にはじめることができる参加の仕方が示されていてよいと思いました。
- 子供や老人などのFBを使えない人は？
- FBいい案！フェアトレード弊害がある。その前の世界の売り上げが必要。ちょっと理想的過ぎると思う。フェアトレードは反対ですが、FBは非常にいいね！



- アイドルを使うことはいい点だと思う。
- 解決策をもうちょっとしっかりしたものにしてほしい。電話、TV等インフラ整備がまだ十分に整っていないのに広めることができるのか。都市部だけになるのではないか。
- 貧しい階層にネットができる環境があるのか。

3回の発表すべてが終わったところで、参加者からのコメントの時間を取った。ただコメントをするだけではなく、事前に3枚のカード（「あまあまコメント」(とにかく大絶賛)・「ピリ辛コメント」(批判的な視点)・「ふつうのコメント」(いつも通り))から1枚を見えないようにして引かせ、自分の引いたカードの指示にあったコメントをするように求めた。

そして、実際にベトナムで行われている環境ビジネスと人身取引ホットラインの様子について説明をした。



ホーチミンのビンファン下水処理場では、大阪市水道局のFさんをはじめ、下水処理技術を持った日本人が技術支援等を行っている。今後、環境分野の技術は、支援という形ではなくビジネスとして扱われるようになっていくということをお聞きした。下水処理の状況がよくないベトナムにあっては、設備を整えていくとともに、人々の下水処理に関する意識も高めていく必要がある。ホーチミンの町中を歩いているとき、屋台のおばさんが残飯をそのまま排水溝に流している様子を何度か目撃したことも生徒に伝え、ビンファン下水処理場が企画している大人の社会見学の意義を確認した。



人身取引ホットラインでは電話相談を広めるために、農村部では電話番号の書かれたカレンダーを作って配布している。デザインの良いものはその年が終わっても貼っておいてもらえることが多いとのことだ。農村部では生徒たちが想像していたようなネット環境は整備されておらず、定期市で歌や寸劇等を通して人身取引の危険性や人身取引ホットラインの存在を伝えている。ま

た、少数民族への意識調査や、地元警察との連携にも力を入れていることも付け加えた。

最後に次回予告として、世界で実際に平和を伝える活動をされている JICA 職員の方の講演を聞くことを告げて、授業を終えた。

(なお、最も多くの票を集めたプロジェクトは C グループの「ベトナム平和プロジェクト」であった。)

〈生徒の反応〉

～発表を行った 3 年 6 組の生徒の振り返りから抜粋～

【小学校での平和学習グループ】

- テーマを日本との比較を重点に置くべきだったと思う。ベトナムの人間が自国のことについて一般教養として知らないわけがないと思うし、ベトナム人の考え方があり、状況、立場、教育理念、すべて違うのに、それを知ることでもせず何かを施そうとするのは危ういと思う。日本との考え方から比較していき、理解するべきだと思った。ベトナムのことについての意識は深まった。
- ベトナムは日本の制度や習慣、文化と違って、日本とまったく同じ制度を取り入れることは難しいんだと気づいた。また、小学生に教えるということでどんな感じにすれば子供が退屈せずより深く平和について考えてもらえるかという計画を立てるのに苦労した。すべての発表を聞いて、他のプロジェクトについてや、他の組の人のコメントにあった課題についてもっと深く考えたり、計画を立て直したりできたらいいなと思った。
- 今回の学習をしなければ、ベトナムのことをこんなに深く考えることはなかったと思う。自分たちの国と違うからといって、日本の思想を押し付けるだけでは平和につながらないんだなと思った。国ごとに違う思想を持っているので、教えることは大変だとわかった。本当の平和学習とはどのようなものかわからなくなった。

【環境ビジネスグループ】

- 日本とベトナムでは生活習慣も考え方も違っているということを前提にして考えていくのはやっぱり少し難しい部分があった。でもみんなでいろいろ考えていくことで、一人では考えつかなかったアイデアが浮かんできたりして、みんな協力して考えていくことは大切だと改めて思った。コメントの「日本の考えを押し付けてはいけない」というのは大切だと分かっているけど、難しいことだなあと思った。
- エコステーションやリユースボトルの案はなかなか良いと思ったが、他の面から見たときに、じゃあそのボトルを作ることによって環境破壊が進まないのか、水はどこから持ってくるのか、そういったデメリット面について考えていなかったように思う。もっと多面的にメリットやデメリットについて考え、かつ援助する国の文化や国民のことを考え、何をするのが役に立つのか、どうすれば winwin の関係になれるのか、第三者の眼になって考えたい。

【人身取引ホットライングループ】

- ベトナムについて調べて、人身取引について考えたことがなかったけど、調べてみて、ホットラインというものがあると分かったし、人身取引の怖さや危険さも知ることができた。ホットラインについての質問で、答えるのに難しかったこともあったけど、協力して終えることができた。人身取引が起こる背景やホットラインを使えない人についてなど、もっと調べてみたいと思った。
- ベトナムの現状とその背景について調べてみて、まったく知らなかったことが分かった。私は一番の原因は、ベトナムの中での格差だと思う。私たちの班は人身取引ホットラインを広めるために現在ベトナムで流行しているフェイスブックを利用するという考えに至った。フェイスブックをするための端末を持っていない人もいるし、使いこなせない人もいる。格差をなくすことも力を入れていく必要があると思った。

〈所感〉

生徒たちがここまで考えることができるとは想定していなかった。地元企業での取り組みを詳しく調べて自分たちなりに発展させ、ベトナムの現状を踏まえて形にしたプロジェクト、3 時間目のフォトストーリーで学んだことを活かしたプロジェクトなど、生徒たちの情報を理解し活用させていく力が発揮されていたように思う。参加者の質問も多くが鋭く本質を突いたものであり、

プロジェクトをよりよいものにしようとする意識がうかがえた。

改善点として、準備の段階で人身取引そのものについて理解が浅いままポスター制作へ入ってしまった点が挙げられる。平和学習や環境問題については小・中・高を通して幾度も触れてきたテーマであるが、人身取引については今回初めて知ったという生徒も少なくなかった。イメージのわからないまま活動に入ったため、議論が深まらなかったようにも見えた。生徒の既に持っている知識や興味関心のあることを十分把握した上で、事前の情報共有を丁寧にするべきだった。

全体を通しての成果と課題

【成果】

• 「日本の考えを押し付けてはいけない」ことへの気づき

ポスターセッションの際、参加者の生徒から出た意見である。発表者の生徒たちにとって、強く印象に残る言葉となったようだ。この生徒たちの気づきが大きな成果だと考えている。生徒たちは、自分たちが受けてきた教育、地域の環境、政治や経済の状況、それらによって育まれた感性や常識は、決して普遍的なものではない、ということを一連の活動を通して学んだのではないか。振り返りを読む限りでは、そのように読み取れた。

• 12年間の知識と経験を使う

また、ワークショップや活動の中で、生徒たちは自然と今までの12年間の学校生活を通して蓄積してきたこと、身につけた知識や経験を使って考えていた。これまでに学んできた様々なことが、新たな問題を解決していく際に物事を考える基本となっていた。知識と経験を組み合わせ、課題を分析し解決策を生み出そうとする道のりは総合的な学習の時間にふさわしい学習になったと感じている。

【課題】

• 各教科との接点をいかにつくるか

1時間目に現代文の授業で枯葉剤について言及されている評論文の学習の後に、ベトナムの枯葉剤に関する文章を読む授業を行ったが、あまりうまくいかなかった。1時間目の時点では、生徒たちには8時間の授業全体の構成は伝えていなかったため、学習の目標や意味を見いだせなかったことも原因の一つだと考えている。

また、今回の場合は、社会科との連携ができれば、より深い知識を持ったうえで活動に取り組めたことも悔やまれる。ただ、中高の場合は教科担任制なので、教科間での連携が難しい。学校全体とまではいかなくても、複数教科の担当者が一緒に授業を作ることができたら、よりよいものができるのではないかと思う。

• 生徒の作り上げたプロジェクトをどのように発展させるか

生徒の意見に、ポスターセッションの際参加者から出た意見をもとに、もう一度プロジェクトを練り直したかった、というものがあつた。作ったら作りっぱなしではなく、修正を重ねてプロジェクトの改訂版を作ることで、より深い学びになったのではないかと考える。また、困難なことだとは思いますが、何らかの形でプロジェクトを実際に実行するところまでできたら、実際の反応もあり、自分たちの活動に意味を感じることができるだろう。

【最後に】

「なぜ学ぶのか」という問いについてじっくり考える暇もないほど高校生は忙しい。これから大学生になる高校3年生に向けて私なりの答えを用意したかった。学んだ一つ一つのことは、自分を知ること、相手を知ることにつながっていく。そして、新しい問題に立ち向かう際の自身の基盤となる。ますますグローバル化が進んでいく社会で自分らしく生きるためにも、学び続けてほしい。

参考資料

【書籍】

- 「高等学校 改訂版 現代文」第一学習社
- 中村梧郎（2005）「新版 母は枯葉剤を浴びた」岩波現代文庫
- 文部科学省（平成 20 年）「国際理解教育実践事例集 中学校・高等学校編」教育出版

【インターネット】

- 「JICA 国際協力機構」 <http://www.jica.go.jp/>
- 「外務省 ベトナム社会主義共和国」 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/>

※ JICA 中国主催の「高校生国際協力プログラム」で行われた「なりきり青年協力隊」の資料を JICA 中国から提供いただき、それも参考とした。